



江別ユネスコ協会事務局だより 2016年7月7日号

◇江別ユネスコ協会事務局/067-0074江別市高砂町24-6 教育委員会生涯学習課内(担当石津☎381-1069)

学習会「アメリカ高校教育の裏事情」を開催します

当協会は、2016年8月5日(金)18時より、野幌公民館の2階・研修室5号において、市民学習会を開催します。講師はアメリカ・ウイスコンシン州のパーカー高校の現任教諭ービル・カンウエイさんをお招きして、アメリカの高校教育の実情を話して頂きます。会員の皆様はもとより、ご家族・ご友人などお誘い合わせ、多数のご出席をお願いします。

ビルさんは社会科の先生ですが、ギタークラブ、日本語クラブ、カードゲームクラブなどの顧問をしており、生徒たちの心情もよく理解している一方、雑用に追われて教材研究も十分にできない同僚の先生たちの苦しい立場も、身をもって体験しています。日本の高校教育とくらべてアメリカの現状は上手く行っているのか?問題点はないのか?率直なご意見を聞いてみたいと思います。

江別には、ウイスコンシン州出身の人があまり来訪しないので、この際、アメリカ中西部の北の地域に住んでいるビルさんに、この地方の住民が西海岸や東海岸に住んでいる人々と異なる国家意識を持っているのではないか—という点もお聞きしてみたいと思います。

◎市民学習会「アメリカ高校教育の裏事情」 講師：ビル・カンウエイさん

8月5日(金)午後6時より、野幌公民館2階・研修室5号にて開催。

イスタンブールの「第40回世界遺産委員会」いよいよ始まる

本年の「第40回世界遺産委員会」はトルコのイスタンブールで、7月10日から同20日までの日程で開催されますが、国内の治安が悪化しているので、無事に終了するか心配されています。

規定による委員国は21か国ですが、今回、日本は委員国ではありません。今回の審査対象になるように、日本から「長崎の教会群とキリスト教関連資産」を推薦していたのですが、現地調査を担当したICOMOS(国際記念物遺跡会議)の中間報告において、「すでにキリスト教関連のものは大量に登録されているので、日本は禁教期に重点を置いて全体を再構成したほうが良い」というアドバイスを受けたため、世界遺産委員会へ正式勧告が出される前に、推薦を取り下げ、将来に再推薦の道を残しました。

このため、日本から今年の委員会への推薦物件はゼロとなりましたが、フランスが「ル・コルビュジェの建築作品」を、世界7か国17資産の保有国を代表して世界遺産委員会へ申請したので、東京上野の「国立西洋美術館」が、その構成資産の一つとして今年の世界遺産登録の榮譽に輝くことになりそうです。20年越しの申請で根気よくねばったフランスの政治力に感謝しましょう。

「山・鉾・屋台行事」は、今秋、無形文化遺産に登録されるか

無形文化遺産条約にもとづいて、日本政府が2014年3月に申請した「山・鉾・屋台行事」の審査について、2015年5月にユネスコ事務局より通告があり、年間審査件数が50件を超えたので、日本からの申請は2016年の審査対象物件に先送りされました。2016年に入っても各国からの申請は続々と行われているので、日本側の関係者は2016年中に審査されるかどうか心配しています。

無形文化遺産条約の第8回政府間委員会の決議では、いずれの申請国も、2年に1件は必ず審査を受けることができると約束されています。この約束が守られることが期待されます。

この無形文化遺産条約の加盟国は2016年1月現在163か国。登録件数は336件。そのうち日本からは22件が登録されています。登録数の一番多い国は中国で、38件です。

